

山形県立図書館活性化 基本計画

平成28年3月
山形県教育委員会

目 次

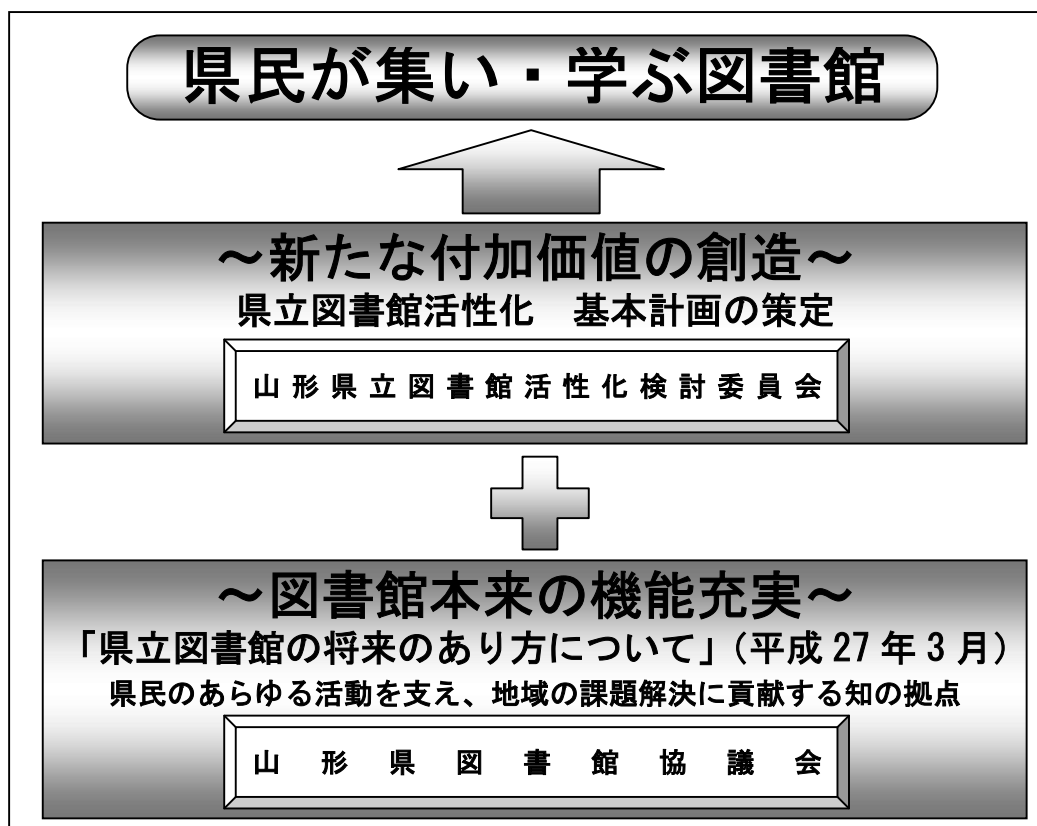
第 1 章 活性化基本計画策定の趣旨・経緯.....	1
第 2 章 調査結果の概要	2
1. 調査の方法.....	2
2. 集計結果等.....	2
第 3 章 基本コンセプト	7
第 4 章 具体的方策.....	9
1. 大規模改修の実施	9
2. ICT 活用の充実	11
3. 管理運営の充実	12
第 5 章 評価・検証.....	16

第1章 活性化基本計画策定の趣旨・経緯

近年の図書館を巡る環境の変化や県立図書館に対する県民の期待を踏まえ、山形県図書館協議会は、平成27年3月に「県立図書館の将来のあり方について」として改善策をまとめ、実施可能なところから図書館本来の機能の充実を図っていくことを求めている。また、「さらなる活性化に向けて」として、図書館のみならず、併設する施設を含めた検討や、周辺の文化施設やNPO・ボランティア等との連携も視野に入れた「賑わい」創出の仕組みづくりなどの議論が必要としている。

これを踏まえ、山形県立図書館のさらなる活性化を図るために、新たな付加価値の創造を目的とする方策の検討組織として「山形県立図書館活性化検討委員会」を設置した。検討委員会では、これまでの図書館の枠にとらわれない視点から検討を行い、「県民のあらゆる活動を支え、地域の課題解決に貢献する知の拠点」という図書館の基本理念のもと、その担うべき役割や機能を維持しつつ、県民本位の利用しやすい図書館づくりを目指し、「県民が集い・学ぶ図書館」を実現するため基本計画を策定する。

図1-1 山形県立図書館活性化検討委員会の位置付け



第2章 調査結果の概要

◆ 1. 調査の方法

県立図書館に関するニーズ把握のため、インターネットを利用したアンケート調査と聴き取り調査を実施した。

インターネットを利用したアンケート調査では、調査会社の県内モニター1,450人に対して実施した。聴き取り調査等は、山形市内の高校生（24人）、大学生・大学院生（30人）、読み聞かせグループ（12人）、子育て中の母親グループ（27人）に対して実施した。また、経済界については、事前に山形市内の51人にアンケート調査を実施した後、5人から聴き取り調査を行った。

◆ 2. 集計結果等

(1) インターネット利用によるアンケート調査

【利用の有無と来館頻度】

- ・「来館利用有」は44.3%で、「週1回以上来館する」は4.4%であった。

【利用目的】

- ・「本を読む・借りる」が利用目的の上位を占め、その中でも「趣味・娯楽の本」が36.4%、「生活に関する本」が32.4%、「知的好奇心・探究心を満たす本」が30.8%、「仕事や職業に関する本」が25.2%であった。また、「本に囲まれた空間でゆっくり過ごす」は11.5%であった。

【非来館理由】

- ・「遠い」が46.0%、「市町村の図書館を利用」が28.7%であり、村山地域以外の県民にとっては遠い存在となっている。また、「行く時間がない」が24.0%となった。

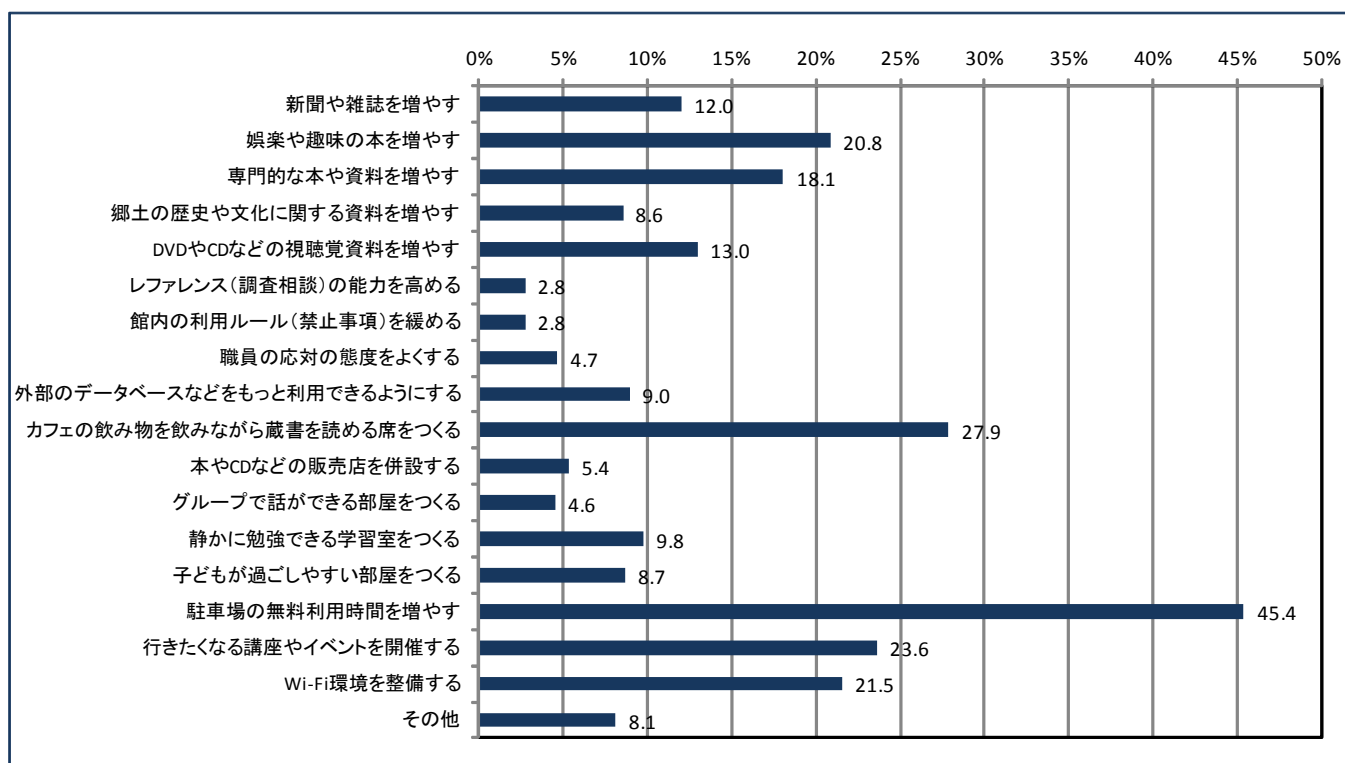
【県立図書館のイメージ】

- ・「県民にとって大切な施設」が31.4%、「本や雑誌の蔵書が充実」が26.3%、「県の歴史や文化資料を収集・保存している」が25.9%、「静かな環境で勉強や調べ物ができる」が23.9%など、調査・研究の施設として評価されている。一方で、「お堅い雰囲気気で気軽に相談できない」が16.4%となった。

【改善すべきところ・今後力を入れてほしい分野】

- ・ 駐車場に関して「駐車場の無料利用時間の拡大：45.4%」と約半数が要望している。
- ・ 増やしてほしい資料に関しては、「娯楽や趣味の本：20.8%」「専門的な本や資料：18.1%」「DVDやCD等の視聴覚資料：13.0%」「新聞や雑誌：12.0%」「郷土の歴史や文化に関する資料：8.6%」の順であり、比較的幅広い資料の収集を望んでいる。
- ・ その他のサービスに関しては、「カフェの飲み物を飲みながら閲覧できる席：27.9%」「行きたくなる講座・イベント開催：23.6%」「Wi-Fi環境整備：21.5%」「静かに勉強できる学習室9.8%」「外部のデータベースなどをもっと利用しやすく：9.0%」「子どもが過ごしやすい部屋：8.7%」の順となっている。このうち、カフェや講座・イベントに関しては、年代を問わず要望が強い。

図2-1 改善すべきところ・今後力を入れてほしい分野



資料：インターネット調査結果より（複数回答）

(2) 聴き取り調査

① 高校生より

- ・空間や利用環境に関しては、「さらなる勉強空間としての快適性向上（一人用だけでなく、グループや友達と教え合いながら勉強できる空間）」「飲み物が飲める空間の拡張」「館内への荷物持ち込み制限の改善」の意見が多い。
- ・資料に関しては「話題の本や読書感想文指定図書をもとめて展示」の要望がある。
- ・開館時間に関しては、「学校利用ができなくなる時刻（教室は 19 時まで、図書室は 17 時まで利用可）以降に開館していれば利用する」との意見がある。

② 大学生等より

- ・「飲み物可や、持ち込んだものを飲食できる空間」「休憩やおしゃべりができる空間」「カフェなど軽食も可能なスペース」への要望が強い。
- ・「Wi-Fi 環境や利用可能な電源の確保」「ロッカー利用の改善」等の意見も見られた。

③ 経済界より

【駐車場について】

- ・「資料返却利用に限定した駐車場の整備」「返却用ドライブスルーの設置」「県営駐車場からの道をわかりやすく」「隣接市有地の活用」等の提案が出されている。

【会議・催事・交流目的での利用のためには】

- ・「駐車場利用条件の改善要望」が最も多い。
- ・「研修やミーティングができるスペース」「小中高校生がテーマをもって調べられるカリキュラム導入」「講座やイベントの数や内容の見直し」「カフェ機能の拡大や蔵書を読めるカフェ」「Wi-Fi 環境の整備」「県民にとっての憩いの場所のイメージづくり」「開館時間の延長により仕事・学校が終わった後の利用誘導」等の意見が見られた。
- ・地元商店街からは、「図書館とのコラボレーションのための委員会立ち上げ」との意見もあった。

【遊学館全体について】

- ・「遊学館全体の機能が不鮮明」「入口が広いのもっと有効活用すべき」「施設全体が暗いのもっと明るく」「遊学館に図書館があることを知らない

人が多いので、名前を変える」「利用者が憩いを求めてくるようなイベントの開催」等の意見・提案が出されている。

【図書館について】

○児童コーナー

- ・「子ども連れで気軽に行ける雰囲気、うるさいならコーナーを囲む工夫が必要」「不登校児が人とふれあう場所として活かす」「子育て中の親のための空間の併設」「近くの小学校の校外学習の利用」等の提案が出されている。

○青少年コーナー

- ・「若者がおしゃべりできる空間の整備」「村山地区の高校生参加による資料を使った学習企画の開催」「若者が好む CD・DVD の充実」等の提案が出されている。

○サービス全般

- ・「コミュニティの場として、コンビニ・レストラン等の設置」「山形再発見の催事の際の図書館利用による学習機会を設ける」「シニア世代は2階に上がらないので1階の蔵書を増やす」「仕掛けるイベント及びその告知を拡大」等の提案が出されている。
- ・「七日町商店街との協働事業（例えば読書週間に合わせた事業など）の可能性はあるが、市立図書館との差別化は重要」との意見も出されている。
- ・その他として「開館時間の延長」「郷土資料の充実」「民間を見習った運営の見直し」等の意見も出されている。

【県立図書館のイメージ】

- ・「県の歴史・文化を大切にしている」「生涯学習や情操教育に大切な施設」「IT時代だからこそ、人が集うコミュニティとしての存在感がある」「静かに勉強・調べ物ができる、調べたい時には必ず関連資料がある、蔵書が多い」「良い環境で静か」とのプラスイメージを多く持たれている。
- ・逆に、数は少ないが「気軽に利用できない堅い雰囲気」「主に学生が勉強に利用する場所」「IT時代には縁遠い施設になった」「遊学館との名称により図書館のイメージがない、存在感が薄い」とマイナスイメージも持たれている。

④ 読み聞かせグループより

- ・「図書館に来たのか、生涯学習センターに来たのか分からず図書館には入りにくい」「児童コーナーの場所が分かりにくい」「書架が高くて手が届かない」等の指摘があった。

- ・要望としては、「児童書架をもっと低くしてほしい」「子どもたちがゆっくりと読書ができるスペースが欲しい」「子どもが声を出すので大人の空間とのすみ分け」「子ども用のトイレ、授乳スペース、おむつ交換スペースが欲しい」「展示会・講座等の企画拡大や読み聞かせの定例化」「駐車場の改善」「絵本は絵作者順の配架がわかりやすい」が出されている。
- ・県立図書館として、「県内図書館のモデルとなる児童サービスの充実」や「県内図書館との関わりの強化や講座の充実」への期待もある。

⑤ 子育て中の母親グループより

- ・「話ができたり、読み聞かせができるスペースや子どもが靴を脱いで本を読めるスペースが欲しい」「使いやすい授乳スペースやおむつ交換スペースが欲しい」「駐車場の改善」「親子で利用できるカフェ」等環境面での要望がある。
- ・サービス面では「定期的なイベントの開催」「子育てマスターなどの相談ができる職員がいるとよい」との意見も出された。

第3章 基本コンセプト

県立図書館の「知の拠点」としての役割を充実させるとともに、県民が様々なサービスを受けられ、幅広い世代の人々が活動・交流する場を活性化のイメージとし、「県民が集い・学ぶ 本のまち」を基本コンセプトとした。

この基本コンセプトの実現に向けて、「ときめく」「たよれる」「つながる」「ひろがる」の4つを柱に、具体的な活性化策を展開していくこととした。

基本コンセプト

県民が集い・学ぶ 本のまち

ときめく
図書館

多様な資料の充実を図るとともに、開架書架を拡充して、本に囲まれ、本との新たな出会いを演出する「ときめく図書館」の実現を図る。

たよれる
図書館

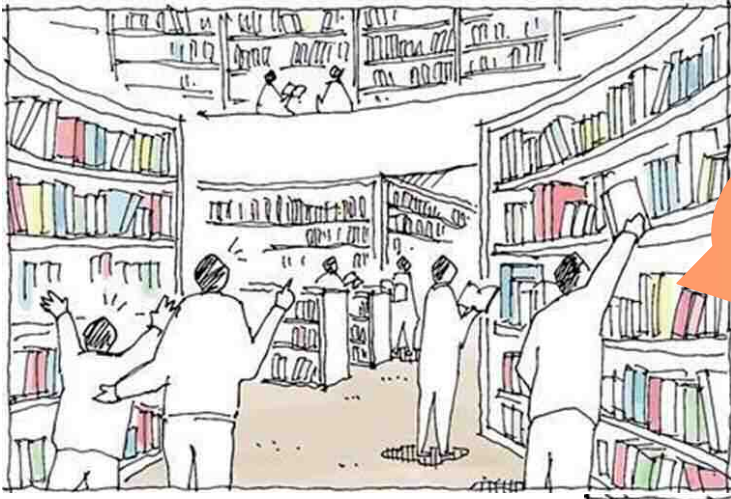
調査相談能力を強化し、そのサービスの認知度を高めるとともに、コンシェルジュ機能をも付加するなど利用者からも市町村図書館等からも「たよれる図書館」の実現を図る。

つながる
図書館

IC タグシステムと一体化した新図書館情報システムの導入を推進するとともに、ICTの活用等により多くの県民と「つながる図書館」の実現を図る。

ひろがる
図書館

幅広い世代に優しい空間づくりを実施するとともに、多様な主体と連携を進め「ひろがる図書館」の実現を図る。

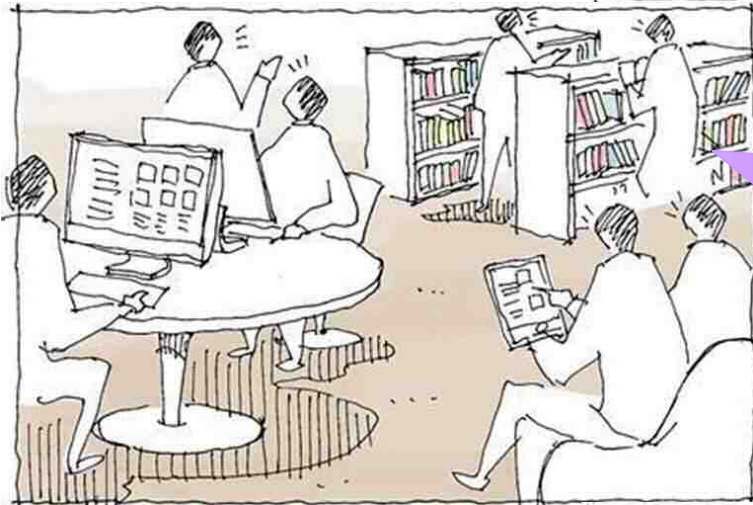
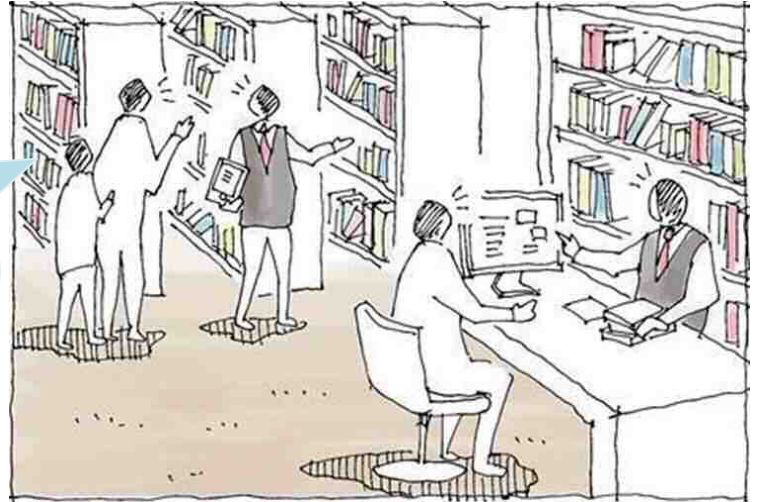


新たな本との出会い！

「ときめく」図書館

気軽に相談！

「たよれる」図書館

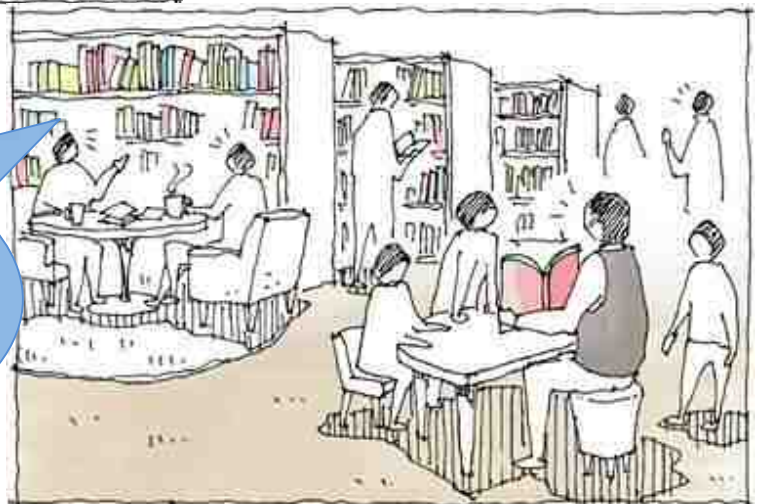


ICTで幅広い情報と

「つながる」図書館

赤ちゃんから高齢者まで
人の輪が

「ひろがる」図書館



第4章 具体的方策

◆ 1. 大規模改修の実施

「本との新たな出会い」や豊かな「学び」を提供するためには、多様な資料の充実を図るとともに、その資料が開架されていることが大切である。また、幅広い世代の人々に対応したそれぞれの空間づくりも重要であり、それらを可能にするため施設の改修を実施する。

(1) エリア及び閲覧席数の拡大

① 図書館エリアの拡大

- ・ 県立図書館のエリアを現 3,390 m²から遊学館 1・2 階の約 5,700 m²に拡大する。但し、2 階の研修室等は除く。

② 開架エリアの拡大

- ・ 現在の開架冊数は約 178,000 冊であるが、400,000 冊の開架が可能となるよう拡大する。
- ・ 書架の配置は、利用者が本に囲まれ、新たな本との出会いが生まれるよう工夫をするとともに、利便性にも配慮するものとする。

③ 閲覧席数の拡大

- ・ カウンター席、グループ席、ソファ、スツール等、多様なスタイルの閲覧席を、現 110 席から 200 席以上に拡大する。

(2) 充実を図る施設等

① 1 階

子どもや若者の利用を想定したエリアを多く配置し、従来の「静かな」図書館のイメージから、BGM の導入など、気軽に訪れることができる空間づくりを目指す。

○ 総合受付及び展示・催物コーナー

- ・ 遊学館入口付近に総合受付を配置する。また、IC タグシステムの導入に伴いセルフ貸出機を設置するとともに、予約本貸出棚の設置を検討する。さらに周辺に展示・催物コーナーを配置する。

○ 子ども用エリア

- ・ お話の部屋や託児スペース・プレイスペース・子ども用トイレ・授乳室等から構成する子ども用エリアを配置する。整備に当たっては子どもや親子などが会話可能な空間とする。

- ティーンズエリア
 - ・中高生を対象とするグループでの会話が可能なティーンズコーナーを配置する。
- 新聞・雑誌エリア
 - ・中庭の景観を楽しみながら長時間くつろげるエリアとする。
- デッキエリア
 - ・中庭に面して、子供用・大人用それぞれのデッキスペースを用意する。
- カフェエリア
 - ・全ての世代が「飲み物を楽しみながら読書や学習ができるスペース」を要望していることを踏まえ、カフェエリアの充実を図る。
- 対面朗読室
 - ・目の不自由な方や高齢の方を対象とした、対面で読み聞かせが可能な個室を配置する。
- アクティブラーニングエリア
 - ・グループで作業やディスカッションができる空間を配置する。また、活動の様子が外から見えるよう、ガラスパーテーション等で仕切られた空間とする。
- コンシェルジュカウンター
 - ・図書館のインフォメーション機能はもとより、周辺施設や地域の情報についての多様な相談に対応するカウンターを設置する。

② 2階

静かに読書や学習ができるエリアとし、一般閲覧席の他、サイレントルーム、パソコン席などを設け、静寂な空間とする。

- サイレントルーム
 - ・静寂な環境で読書や学習ができる空間とし、透明なパーテーション等で仕切られた部屋を設置する。
- 吹き抜け周辺カウンター
 - ・吹き抜け周辺に、パソコンやタブレット端末が利用できる電源のあるカウンター席を設ける。

(3) 利便性のよい駐車場の整備

- ・駐車場の利便性向上が利用者の最も強い要望であることに配慮し、県営駐車場の無料利用時間の拡大や近隣における駐車場の確保を検討する。また、返却だけの利用者に対応したドライブスルー型返却スペースの整備の可能性を検討する。

◆ 2. ICT 活用の充実

県民に等しくサービスを提供するという県立図書館の使命を果たすためには、ICT を活用した資料の提供と、県内外図書館とのネットワーク化が重要である。

また、郷土資料等の収集や保存は、県立図書館の大切な役割であり、そのデジタル化や公開に ICT の充実は不可欠である。

(1) 郷土資料等のデジタル化と公開

- ・県内の地域学習・文化活動の拡大のため、県立図書館が所蔵する行政資料・古文書・絵図等地域資料・歴史資料のデジタル化を進める。デジタル化に当たっては、詳細な目録データ（メタデータ）を作成する。
- ・デジタル化した資料については、来館者への閲覧サービスを行うとともに、ホームページ等で一般に公開する。

(2) 市町村図書館・図書室とのネットワーク構築と連携強化

- ・県立図書館及び市町村図書館・図書室全体の図書館サービス向上のため、すでに導入している横断検索システムの充実に加え、調査相談情報やイベント・講座等の催し物情報を共有化できるシステムの構築を検討するとともに、情報提供に関する連携を強化する。

(3) Wi-Fi 環境の導入

- ・インターネット利用環境の充実に向けて Wi-Fi 環境の整備を図る。

(4) ポータブル型の貸出処理端末機器の導入検討

- ・出張図書館や館外のイベントにおいて、その場で貸出処理が可能となるような端末機器の導入を検討していく。

(5) デジタル書籍閲覧システム（web 図書館）の導入検討

- ・デジタル書籍閲覧システムは、平成 19 年に導入され徐々に全国的に普及しているが、県立図書館が購入対象とする書籍の多くが電子化されるという段階には至っていないため、その導入について状況をみながら検討していく。

◆ 3. 管理運営の充実

図書館活性化には、施設の改修、ICT 活用の充実など、ハード面の整備・充実とともに、組織体制の充実を図り、市町村図書館等を含む利用者へのサービス向上というソフト面の充実が重要である。

(1) 資料の充実

- ・幅広い分野の資料の充実を図るとともに、高齢者向けの大活字本や児童書の充実を図る。
- ・山形県の歴史・文化を保存・伝承していく役割を果たすため、郷土資料等の充実を図り、企画展示や関連イベント等で広く情報発信していく。
- ・選書については、県立図書館としてより専門的な資料収集を図るため、市町村図書館・図書室との連携を密にして進めていく。

(2) 調査相談能力の向上と情報発信

① 調査相談能力の向上

- 司書の安定的配置方策の検討（司書の働く場の創出）
 - ・調査相談サービスの充実のためには、知識と経験を有する図書館司書の継続的配置が不可欠であることから、司書資格を有する者の長期雇用が可能となるよう検討する。
- 研修の充実
 - ・調査相談能力向上のため、国立国会図書館が提供する「レファレンス協同データベース」等を活用した研修や、専門家による研修を実施するとともに、館外の研修会への積極的な参加を促進する。
- 調査相談資料の充実
 - ・専門的な事項を含む様々な幅広い調査相談内容に対応できるように、調査相談事例の検討を行いながら調査相談資料を充実させる。
- 専門機関紹介機能の強化
 - ・情報収集力及び関係機関との連携を強化し、利用者に専門機関を紹介できる体制を整える。

② 利用促進のための情報発信

- ・ホームページやフェイスブック等を利用して、調査相談サービスの有用性を PR するとともに、調査相談事例の紹介等を積極的に行い、図書館資料を活用した調べ方ガイド（パスファインダー等）の充実を図る。

(3) 市町村図書館・図書室と学校図書館への支援の充実

① 市町村図書館・図書室との連携と支援強化

- 相互貸借及び団体貸出（一括特別貸出）の拡充と資料配送体制の見直し等
 - ・県内市町村図書館・図書室を対象とする相互貸借及び団体貸出が、「図書館の図書館」たる県立図書館の重要な役割の一つであることから、蔵書の充実を積極的に行うとともに、県内の利用者に速やかに資料が届くよう配送体制の見直しを検討し、相互貸借及び団体貸出の増加を図る。
- 市町村図書館・図書室職員を対象とする組織の強化と研修の充実
 - ・市町村図書館・図書室職員のスキルアップのため、職員を対象として、図書館サービスに関する多様な研修を充実する。
 - ・市町村図書館・図書室の司書の連携強化を図られるよう、山形県図書館協会を通じて研修体制を検討する。

② 学校図書館へのサポート機能の強化

- 学校図書館等の支援と情報交換機会の拡大
 - ・高等学校図書館の運営に関する相談窓口として、学校司書及び司書教諭向け研修や相互に情報交換を行う機会を設けるとともに、学校図書館等への貸出サービスを拡充強化し、生徒等の読書活動を支援する。また、市町村図書館・図書室を通じて、小中学校の学校司書及び司書教諭に対する研修及び蔵書が少ない小中学校に対する団体貸出等を支援していく。
- 授業関連図書等の提供
 - ・10代の若者向けの新着本を紹介する情報誌（ゲートブック）を学校図書館に配付するとともに、学校司書や教員と連携して、学校の授業に関連する「関連図書」「同一作家図書」等の貸出について検討する。

(4) 幅広い県民に利用しやすい開館日・開館時間の設定

- ・図書館利用者は様々な目的を持ち、それぞれのライフスタイルに合わせて図書館を利用することから、利便性向上のため開館日を拡大する。また、開館時間についても、閉館時刻の延長について検討していく。

(5) 多様な主体と連携した賑わいを創出する仕組みづくり

- ・生涯学習センター及び男女共同参画センターと連携・協働し、県民ニーズに対応した多彩な企画を積極的に開催するとともに、企画に参加した個人や関係団体の図書館利用を促進する。
- ・大学コンソーシアムやまがたや大学等との連携・協働により、講座やゼミ、サークル活動等での利用促進を図る。

- ・読み聞かせや子育て団体の日常的な利用を促進するとともに、多様なグループから図書館の企画運営に主体的に参画してもらう仕組みを構築する。
- ・近隣の商店街や施設等で行われるイベントと連携した企画を実施する。
- ・県内企業と連携し、地元産品の展示・即売、講演会の開催、産直市の開催等、図書館本来の機能にとどまらない多様な賑わい創出の仕掛けづくりを検討していく。
- ・書籍や雑貨等の常設の物販について、あり方を検討していく。

— 具体的方策の体系 —

基本コンセプト

県民が集い・学ぶ

本のまち

ときめく
図書館

- ・大規模改修の実施
- ・開架エリアの拡大
- ・資料の充実
- ・ブック&カフェスペースの設置
- ・デッキエリアの設置
- ・サイレントルームの設置
- ・ティーンズエリアの設置
- ・ポータブル型の貸出処理端末の導入検討
- ・図書館エリアの拡大
- ・閲覧席数の拡大
- ・子ども用エリアの充実
- ・Wi-Fi環境の導入

たよれる
図書館

- ・資料の充実（再掲）
- ・司書の安定的配置
- ・情報発信の強化
- ・相互貸借の充実
- ・市町村図書館等への支援強化
- ・学校図書館への支援強化
- ・コンシェルジュカウンターの設置
- ・司書の働く場の創出
- ・研修の充実
- ・司書の連携強化
- ・市町村図書館等との連携

つながる
図書館

- ・郷土資料等のデジタル化と公開
- ・市町村図書館等とのネットワーク強化
- ・Wi-Fi環境の導入（再掲）
- ・ポータブル型の貸出処理端末の導入検討（再掲）
- ・デジタル書籍閲覧システムの導入検討

ひろがる
図書館

- ・生涯学習センター及び男女共同参画センターとの連携企画
- ・読み聞かせ団体、子育て団体等との連携
- ・近隣の商店街や施設、企業との連携
- ・開館日の拡大と開館時間の延長検討
- ・アクティブラーニングエリアの設置
- ・産直市等の開催検討
- ・常設物販のあり方検討
- ・利便性のよい駐車場の整備
- ・子ども用エリアの充実（再掲）
- ・デッキエリアの設置（再掲）
- ・大学等との連携

第5章 評価・検証

○継続的な満足度調査の実施

- ・接遇・蔵書・広報・展示・各種催し物等の図書館サービスと、使いやすさ・居心地の良さ等空間・環境に関する利用者満足度調査を継続的に実施し、サービス等の改善に活用する。また、市町村図書館・図書室に対しても、支援サービスに関する調査を継続的に実施し、支援内容の見直しや強化に活かす。

○県民全体の図書館利用の総量を用いた評価の検討

- ・県立図書館は、来館者に対する直接サービスに加え、県内市町村図書館・図書室への支援を通して間接的なサービスを行うことにより、広く県民全体へのサービスを提供する役割を有している。したがって、図書館の直接利用に加え、県内市町村図書館・図書室利用を含めた県全体の総量を把握して指標とすることが考えられることから、その把握方策を検討する。

<現状>

図5-1 県立図書館の総合的満足度



資料：平成 26 年度実施 山形県立図書館の利用に関する県民意向調査結果（来館者アンケート）
回答数：275 人／性別：男性 65%・女性 35%

表 5-1 山形県内図書館の利用状況（平成 26 年度）

	来館者数（人）	個人貸出冊数（冊）	人口当たり個人貸出冊数 （冊／100 人）	（参考）人口（推計） H26. 4. 1（人）
県立図書館	192,779	212,759	18.8	1,133,960
県内図書館（22 館）	2,097,050	3,759,568	362.4	1,037,505
県内公民館図書室（13 室）	—	94,441	97.9	96,455
総 計	2,289,829	4,066,768	358.6	1,133,960

※来館者については、集計できない県内図書館が 3 館ある（資料：山形県立図書館）

山形県立図書館活性化検討委員会

<委員名簿>

(敬称略)

委員長 逸見 良昭 (株式会社尚美堂 代表取締役社長)

委員 山崎 亮 (東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科長)

〃 尾形 恵子 (有限会社ティップス 取締役社長)

〃 新藤 透 (山形県立米沢女子短期大学国語国文学科准教授)

〃 大沼 洋美 (studio こぐま 代表)

<外部アドバイザー>

(敬称略)

糸賀 雅児 (慶應義塾大学文学部教授)

岡崎 エミ (東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授)

醍醐 孝典 (東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授)

鈴木 秀明 (「小説家 (ライター) になろう講座」事務局長)